

平成29年 3 月期 決算説明資料

代表取締役社長 佐野勝大
2017年5月12日

株式会社ユビキタス

© 2017 Ubiquitous Corporation. All rights reserved.

This presentation is for informational purposes only. Ubiquitous makes no warranties, express or implied, in this summary.



Agenda

- 平成29年 3 月期業績の概要
 - － 経営成績、財務状況
- 平成30年3月期の業績予想と重点取り組み
- トピックス

業績の概要

平成29年 3 月期 決算ハイライト(連結)

業績予想比

単位：百万円

	H29/3期	修正後 業績予想	増減額	期業績 初予想	増減額
売上高	1,124	1,150	△25	1,520	△395
営業損益	△286	△270	△16	△97	△189
経常損益	△286	△270	△16	△95	△191
当期純損益	△347	△310	△45	△98	△257

◆エイム社子会社化により連結売上 15.8%増／連結営業キャッシュフロー黒字化の達成

◆業績予想の修正開示（2月6日）

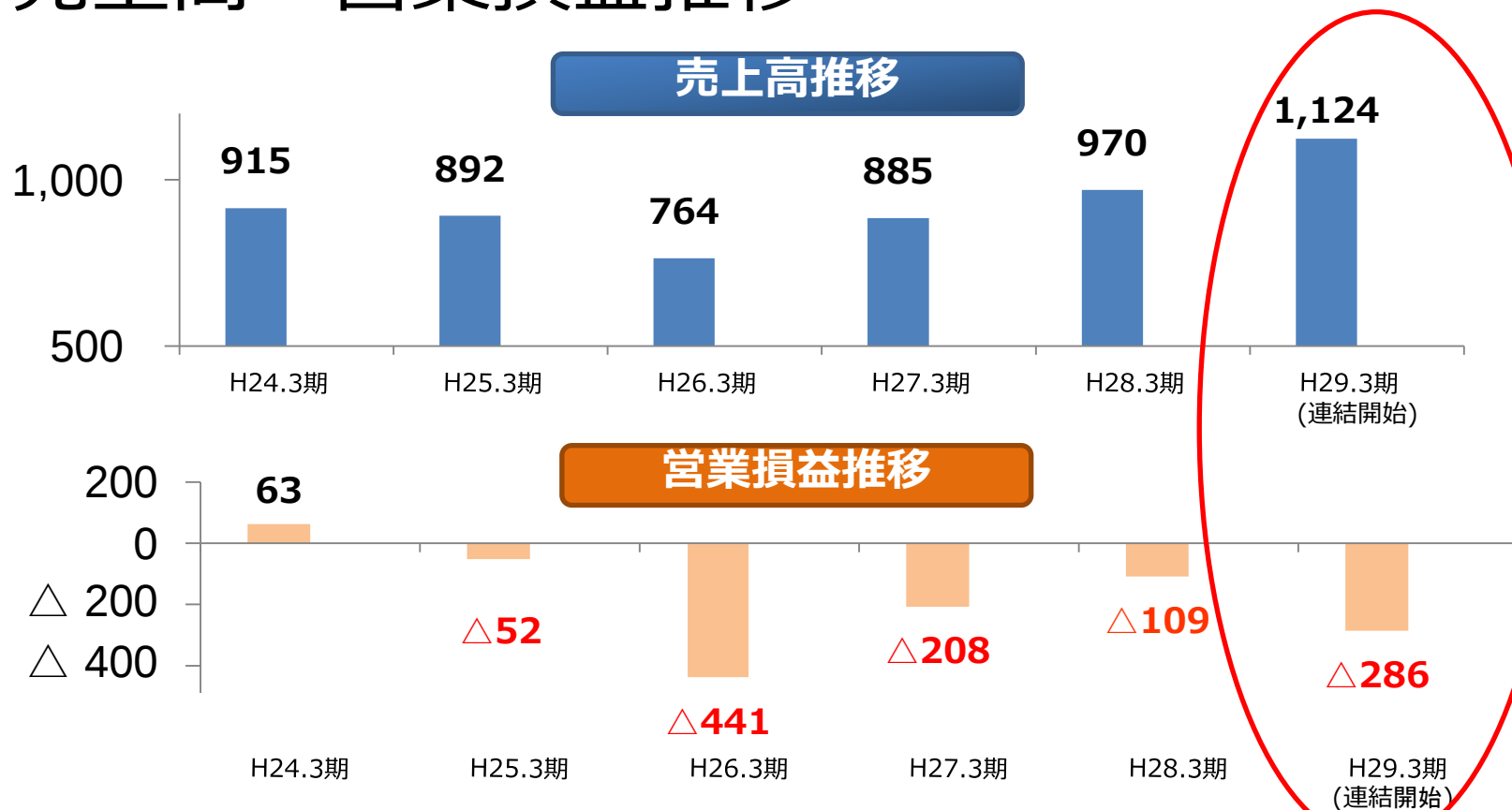
- Ubiquitous TPM Securityの販売体制構築遅れ、製品開発元との提携契約解消の影響
- 電力小売自由化を踏まえた電力小売事業者向け製品、サービスの販売不振
- 海外顧客向け等の受注済みの新規大型案件の顧客出荷遅れ、新規案件評価長期化、等

◆当期実績

- 顧客都合による期末案件の期ずれ等による売上減少

売上高・営業損益推移

単位：百万円



セグメント別概況と市場別売上構成比

●コネクティビティ事業：

- スマートメーター関連等受託案件受注、一部売上獲得
- 協業パートナーとの電力小売市場向け高機能ホームゲートウェイ機器開発は機器製造遅延により販売は来期に延期

●組込みソフトウェア事業：

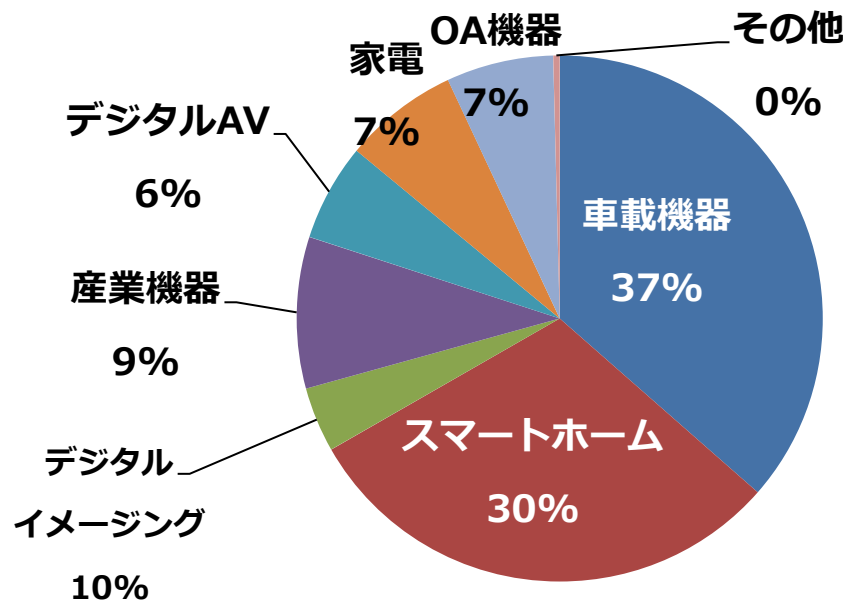
- 車載機器、産業機器を中心とした既存顧客からのロイヤルティ売上と新規案件の契約一時金などを獲得

●ソフトウェアサービス事業

(連結子会社である株式会社エイムの事業に関するセグメント)：

- 期初計画通り着地

市場別売上構成比



損益計算書（連結）

単位：百万円

	前 年 同 期	H29/3期	前年同期比
売 上 高	—	1,124	—
営 業 利 益	—	△286	—
経 常 利 益	—	△286	—
親会社株主に帰属 する当期純利益	—	△347	—

※連結財務情報公表はH29/3期の1Qからのため、連結の前年同期比は記載しておりません。

損益計算書（個別）

単位：百万円

	前 年 同 期	H29/3期	増減率
売 上 高	970	720	△25.7%
営 業 利 益	△109	△ 283	—
経 常 利 益	△100	△ 281	—
当 期 純 利 益	△202	△ 303	—

セグメント及び製品分野別の売上高進捗

単位：百万円

セグメント	分野	前年同期 (個別)	H29/3期 (連結)	増減率
コネクティビティ 事業	組 込 み ネ ッ ト ワ ー ク	410	297	△27.5%
	サ ー ビ ス & ソ リ ュ ー シ ョ ン	190	88	△53.2%
	小 計	600	386	△35.7%
組込み ソフトウェア 事業	デ ー タ ベ ー ス	123	105	△14.6%
	高 速 起 動	246	229	△7.1%
	小 計	370	334	△9.6%
ソフトウェアサービス事業		—	403	—

※連結の増減率は、非連結の前年同期に対する増減比となります。

セグメント別売上及び利益

単位：百万円

		前 年 同 期 (個 別)	H29/3期 (連 結)	増 減 額
コネクティビティ事業	売 上 高	600	386	△214
	セ グ メ ン ト 利 益	△175	△344	△168
組込み ソフトウェア 事業	売 上 高	370	334	△35
	セ グ メ ン ト 利 益	66	60	△5
ソフトウェア サービス事業	売 上 高	—	403	—
	セ グ メ ン ト 利 益	—	101	—

※連結の増減率は、非連結の前年同期に対する増減比となります。

貸借対照表（連結） 資産の部

単位：百万円

	平成28年3月31日 (前期末)	平成29年3月31日 (当期末)	増減額
流動資産	—	2,299	—
現金及び預金	—	2,032	—
売掛金	—	218	—
その他	—	48	—
固定資産	—	601	—
資産合計	—	2,900	—

※連結財務情報公表はH29/3期の1Qからのため、連結の前期末比は記載しておりません。

貸借対照表（個別） 資産の部

単位：百万円

	平成28年3月31日 (前期末)	平成29年3月31日 (当期末)	増減額
流動資産	2,921	2,011	△910
現金及び預金	1,363	1,826	462
売掛金	332	144	△187
有価証券	1,199	-	△1,199
その他	25	40	14
固定資産	173	886	713
資産合計	3,095	2,898	△197

貸借対照表（連結） 負債・純資産の部

単位：百万円

	平成28年3月31日 (前期末)	平成29年3月31日 (当期末)	増減額
負債合計	—	242	—
流動負債	—	202	—
固定負債	—	39	—
純資産合計	—	2,658	—
資本金	—	1,466	—
資本剰余金	—	1,436	—
利益剰余金	—	△289	—
その他	—	45	—
負債純資産合計	—	2,900	—

※連結財務情報公表はH29/3期の1Qからのため、連結の前期末比は記載しておりません。

貸借対照表（個別） 負債・純資産の部

単位：百万円

	平成28年3月31日 (前期末)	平成29年3月31日 (当期末)	増減額
負債合計	110	196	86
流動負債	85	167	82
固定負債	24	29	4
純資産合計	2,984	2,701	△283
資本金	1,457	1,466	9
資本剰余金	1,427	1,436	9
利益剰余金	57	△245	△303
その他	42	44	1
負債純資産合計	3,095	2,898	△197

セグメント及び 製品分野別動向

組み込みネットワーク関連

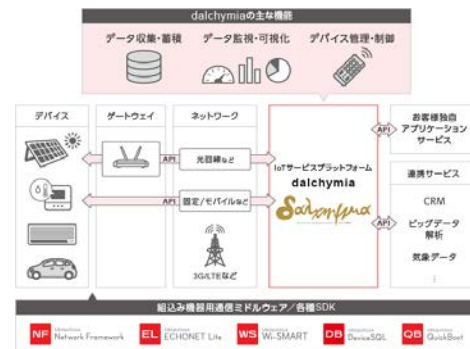
■ 事業全体

- スマートメーター関連、HEMS関連の受託開発で収益を獲得
- 車載機器、デジタルカメラなどの既存顧客との間で「Ubiquitous DLNA」、「Ubiquitous DTCP-IP」、「Ubiquitous Network Framework」、「Ubiquitous Securus」関連の受託開発、ロイヤルティ等の収益を獲得
- 半導体メーカー、通信キャリアなどの顧客との間でセキュリティ関連の評価プロジェクトを継続受注、一部収益の獲得



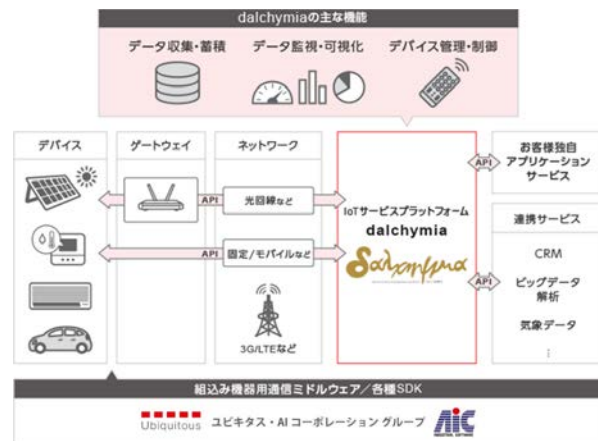
■ 事業全体

- 自動車関連のコネクティッドカーの通信負荷軽減に関する研究開発の受託案件による収益を獲得
- 受注済エネルギー関連のサービス案件が顧客都合により、翌期に納品期ずれ
- 電力使用量から生活反応を推定するディスアグリゲーション技術を発表
- 協業企業との共同開発の高機能 HEMS ゲートウェイ機器の販売に期待するも製造元の製造遅延により来期に持ち越し



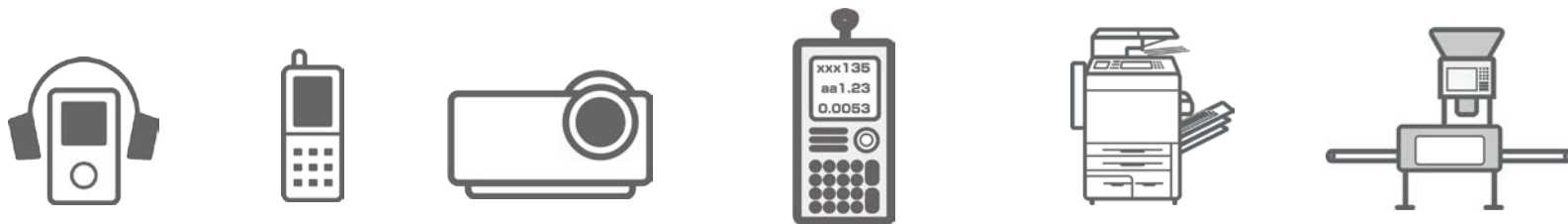
■ 事業譲渡について

- サービス&ソリューション関連のうち、IoTプラットフォームに関する事業を平成29年4月1日付でソーバル株式会社に事業譲渡を実施
- 今後は、IoTを構成するエッジデバイスの組込みソフトウェアの提供に注力、IoTソリューションの提供をソーバル社含めたパートナーとの協業により推進



■ 事業全体

- OA、産業機器等の既存顧客よりロイヤルティ収益等を獲得
- 車載機器の新規顧客より契約時一時金を獲得
- IoT機器の分散データ処理ソリューションの適用可能性を検討、提案



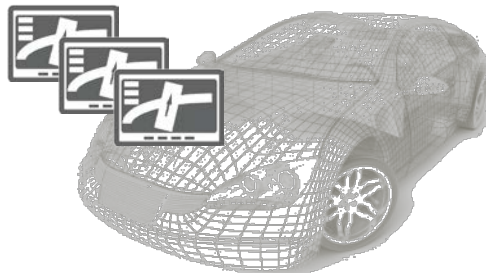
組込みソフトウェア事業 高速起動関連

■ 事業全体

- 車載機器（カーナビ）関連中心に拡販中
 - 既存顧客の出荷堅調のためロイヤルティ収益が安定
 - カーナビ各社の多数に浸透、新機種向けの新規案件につき契約時一時金と受託開発収益を獲得
 - 一般消費者への電子機器向けの評価等海外顧客の案件の継続対応

お陰様で
累計1,100万
本突破！

* 2017年1月末
現在



ソフトウェアサービス事業



■ 事業全体

- 既存顧客との取引を堅実に実行し収益を確保、計画達成
 - 車載機器分野を中心とした各種ソフトウェアの開発受託が好調
 - 協業先の米Gracenote社とのライセンス、サポート契約が順調に継続
 - 車載機器向けの「YOMI」データコンテンツに関するライセンス使用料売上等



gracenote.



Gracenoteの楽曲認識テクノロジーは、Apple iTunesやAmazon Music、Microsoft Groove Musicを初めとしたMusic ApplicationやMusic Online Serviceなど全世界で多数採用されています

※上記各社の商品またはサービスなどの名称は、各社の商標または登録商標です。

平成30年3月期の業績予想と 重点取り組み

グループ体制 ユビキタス・AIコーポレーション グループ



Ubiquitous AI Corporation Group



技術力と実績豊富な受託開発力



- ・エンジニアリング(受託開発)
- ・技術開発
- ・データコンテンツ制作、ライセンス

組込みソフトウェア
製品企画・開発技術力



みらいをつなぐユビキタス

- ・事業企画・自社製品開発
- ・市場開拓
- ・製品販売・インテグレーション

海外組込みソフトウェア
目利き力が光る技術商社力



株式会社 **エーアイコーポレーション**

- ・海外製品仕入れ・販売
- ・技術サポート、パーティング
- ・自社製品開発・販売

組込みソフトウェアNo.1ベンダー

エッジデバイス向けに革新的な組込みソフトウェアを創造・提供する
プロ集団として、IoTによる第四次産業革命を加速し、
これからのお客様の成功と持続的な社会の発展に寄与します

IoT時代に向けた事業体制の整備

- IoT時代の組み込みソフトウェアNo.1ベンダーを目指し事業体制を強化

ユビキタス・AIコーポレーション グループとして、グループシナジーの最大化

コネクティビティ事業

IoT機器向けの
ネットワークソフトウェアソリューション

安心・安全なIoT機器を実現する
組み込みセキュリティソフトウェアソリューション

スマートエネルギー、コネクティッドカー
向けミドルウェアソリューション

組み込みソフトウェア事業

次世代のスマートカー/デバイス向けの
高速起動プラットフォーム

IoT時代の
エッジデバイスデータ管理システム

コネクティッドカー向け
ミドルウェアソリューション

海外パートナー製品、自社技術/製品を組み合わせたソリューション、製品の共同開発、販売、エンジニアリング

ソフトウェアサービス事業（グループ企業）

海外先進ソフトウェアの輸入・販売・サポート

システムエンジニアリングサービス
楽曲関連データコンテンツサービス

国内 組込みソフトウェアNo.1ベンダーへ

■ 優れた“チカラ”の集結

- ユビキタスの組込みシステム **製品企画・開発技術“力”**
- エーアイコーポレーションの海外製品の目利きが光る **技術商社“力”**
- エイムの技術力と実績のある **エンジニアリング“力”**

■ 組込みソフトウェア「ブランド力」強化

- ユビキタス・AIコーポレーション **グループ**
- 組込みソフトウェア業界でブランド力のある「ユビキタス」「エーアイコーポレーション」のグループ化による、業界内での立ち位置強化、対競合に対する差別化
- 「組込みソフトウェアの相談はUAICグループへ」を目指す

■ 3本の矢をひとつに

- 商材/商圏(海外展開含む)、グループ内製品の組み合わせによる複合ソリューション・プロダクトミックスによる競争力、技術力を背景とした **提案力・実装力・販売力**の強化
- 製品販売からポーティングまでワンストップでの対応力強化で受注範囲を拡大
- 次世代製品共同企画、開発のスピードアップ（グループ内だけでなく、海外ベンダーなどとの共同開発）

平成30年3月期 連結業績目標

単位：百万円

	H29/3期 (実績)	H30/3期 (目標)	増減額
売上	1,124	2,470	1,345
営業利益	△286	△20	266
経常利益	△286	△20	266
親会社株主に帰属する 当期純利益	△355	△93	262

◆売上

- ・組込みソフトウェア分野への注力による単体売上増（詳細は後述）
- ・エーアイコーポレーション社の子会社化により業容拡大

◆営業損益

- ・IoTプラットフォーム事業の撤退等による固定費の軽減
- ・子会社（2社）営業利益は同社株式取得によるのれん償却費と同等と想定
- ・エーアイコーポレーション社株式取得のアドバイザー費用等の計上により連結営業赤字継続

平成30年3月期 単体業績目標

単位：百万円

	H29/3期 (実績)	H30/3期 (目標)	増減額
売上	720	800	79
営業利益	△284	5	289
経常利益	△282	5	287
当期純利益	△302	2	304

◆売上

- ・組込みソフトウェア分野への注力による単体売上増（詳細は後述）

◆営業損益

- ・収支均衡（営業黒字化）を目標とする

売上目標内訳

単位：百万円

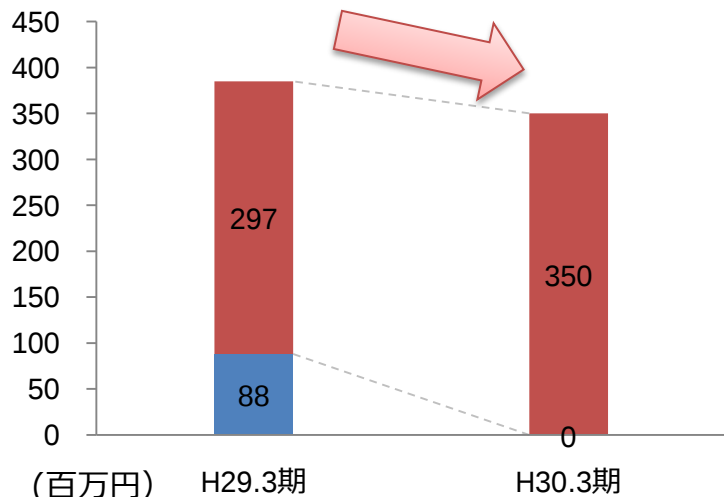
		H29/3期 (実績)	H30/3期 (目標)	増減額
当社連結 売上		1,124	2,470	1,345
I. 当社単体 売上		720	800	79
コネクティビティ 事業	組 込 み ネ ッ ト ワ ー ク	297	350	52
	サ ー ビ ス & ソ リ ュ ー シ ョ ン	88	—	—
組込み ソフトウェア 事業	デ ー タ ベ ー ス	105	60	△45
	高 速 起 動	229	390	161
II. 子会社（エイム社）売上:ソフトウェアサービス事業		403	411	7
III. 子会社（エーアイコーポレーション社）売上		—	1,259	—

コネクティビティ事業 – 重点取り組み

IoTのキーとなる組込みネットワーク技術、セキュリティ技術への注力により売上を拡大

対前期比
10.0%減
(組込みネットワーク
分野17.8%増)

■ 組込みネットワーク
■ スマート&ソリューション



■戦略

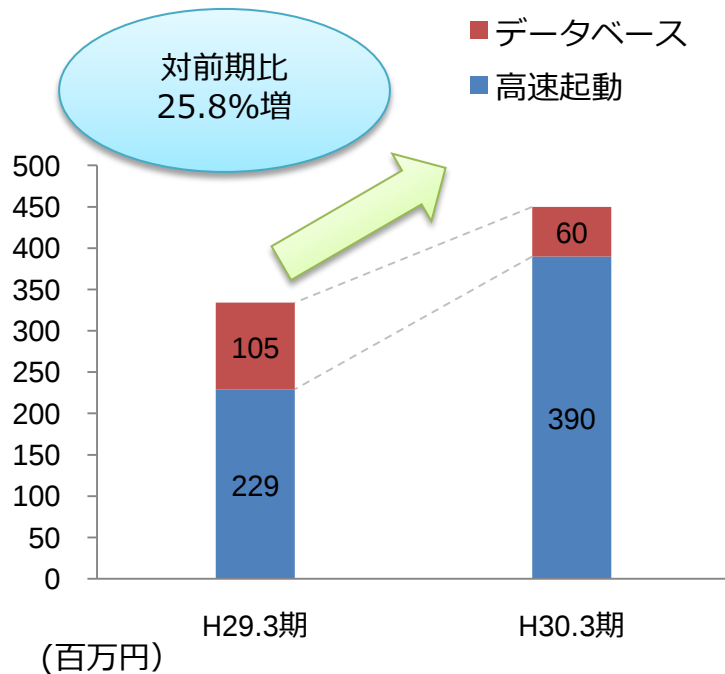
- 電子機器のネットワーク化およびセキュリティ対応など、ニーズが高まり、弊社が技術および製品ラインアップとして強みある分野に注力
- IoTエッジデバイス向け組込みソフトウェア製品をパートナーのIoTクラウド事業との協業により統合ソリューションとして展開

■注力分野、製品

- スマートライフ関連：
 - 電力、ガス、住設市場でのスマートエネルギーサービス関連に対して、ECHONET Lite、Network Framework、Wi-SMARTを各社クラウドサービスと連携するソリューションとして展開
 - グループ内共同開発のBluetooth/ Wi-Fi複合無線モジュール向け製品「ComboConnect」の拡販
- 車載関連：
 - 自動運転、コネクティッドカーに向けたセキュリティニーズに対応したSecurus、HDCP、DTCP関連ソリューションを展開
- IoTセキュリティ：
 - 半導体メーカーと連携し、次世代半導体のセキュリティ機能（TrustZoneなど）に対応した開発、商品化

組み込みソフトウェア事業 – 重点取り組み

自社製品の強みを生かしたターゲット市場でのシェア、顧客獲得による売上の拡大



■戦略

- ・**データベース**：既存顧客の継続採用と産業分野を中心とした安定顧客獲得、顧客ニーズに対応する機能維持継続
- ・**高速起動**：
 - 車載分野でのシェア拡大に必要な機能強化の継続と既存顧客での横展開・新規顧客獲得
 - エーアイコーポレーション社の海外パートナー経由での海外展開

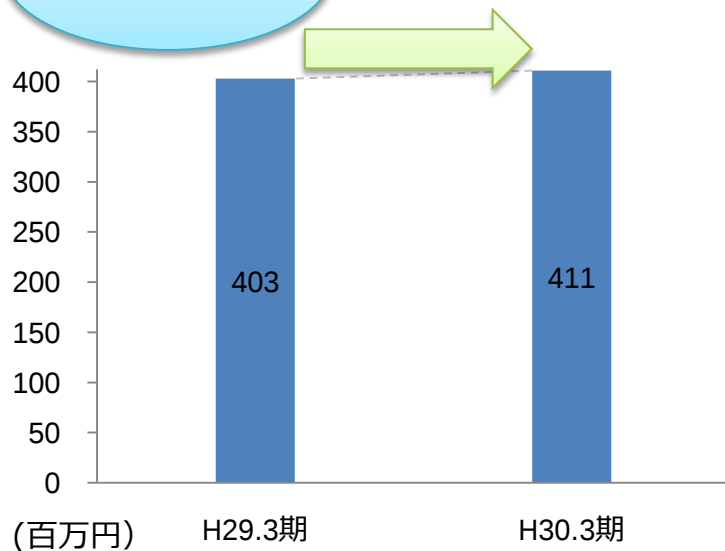
■注力分野、製品

- ・**データベース**：OA機器、検査機器、産業機器などに向けた拡販とIoT機器の分散データ処理の可能性検討
- ・**高速起動**：車載IVI/DA関連、業務産業系でUIを持つ機器など / 車載SoCの最新技術対応(ATOM, i.MX8x など)

ソフトウェアサービス事業 – 重点取り組み

顧客関係の維持、強化による安定収益の確保

前期実績維持



■戦略、注力分野、製品

エーム社（ソフトウェアサービス事業）：

- 既存顧客との各種エンジニアリングサービス、車載機器向けの「YOMIデータ」コンテンツ等に関するライセンス取引等による安定収益獲得
- グループ各社から顧客、案件紹介によるエンジニアリングサービスの増加

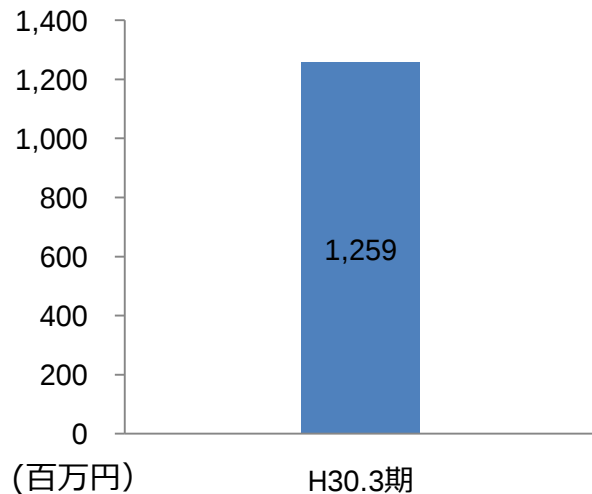
エーアイコーポレーション - 重点取り組み

グループシナジーによる拡販

■戦略、注力分野、製品

エーアイコーポレーション社：

- 海外輸入ソフトウェア製品販売の既存顧客ビジネスの継続とグループシナジーによる新規顧客開拓加速
- 周辺エンジニアリングサービスとサポート
- 新規取扱い製品の獲得と拡販（5～10製品）
- ユビキタス製品の取扱い、グループ内共同企画、開発製品取扱いによる拡販



トピックス

M&A戦略の成果 – エーアイコーポレーション社

- 2017年4月3日に100%株取得、子会社化
- 株式会社エーアイコーポレーション
 - 創業34期目の老舗ソフトウェア輸入技術商社
 - 平成28年10月期 売上約12億/利益約1億円の優良企業
 - 組込みソフトウェア、OS、開発品質向上ツールなど海外の先進的、ユニークなソフトウェアを輸入、販売、技術サポート
 - BIOS、OS、ファイルシステム、コネクティビティ、産業ネットワーク、キャリアグレードスタックなど100種類以上の幅広い製品を取扱い
- 商流の拡大、ユビキタス製品の製品・技術を補完、両社製品を組み合わせたソリューションの販売、共同開発製品などのシナジーに大きく期待
 - すでに近距離無線関連、高速起動関連などで共同企画をスタート



ComboConnectの発表



Ubiquitous AI Corporation Group



- 2017年5月8日発表
- ユビキタス・AIコーポレーション グループ共同開発製品第一弾
- ニーズが高まるBluetooth/Wi-Fiを搭載した無線複合（コンボ）モジュールに対応した無線通信ソリューション、ワンストップでBluetooth/BLE/Wi-Fiの開発環境を提供
- BLE(Bluetooth Low energy)を活用した自動無線切り替え、省電力機能を提供
- 無線干渉、セキュリティオプションなども計画



Appendix

平成29年 3 月期 第 4 四半期 開示一覧

発表日		プレスリリース
第 4 四半期	2月7日	■ ユビキタス、IoT クラウドプラットフォーム「dalchymia Enterprise」を販売開始～IoT ソリューションを独自展開したい企業向けにシステムパッケージとして提供～
	2月14日	■ ユビキタス社、「ディスアグリゲーション」技術を電力事業者向けに提供開始～消費電力総量から電気機器を推定し、電力情報を活用した生活サービス開発を実現～
	2月21日	■ ユビキタス社の高速起動ソリューション「Ubiquitous QuickBoot」累計出荷数1,000万本を突破!～車載機器を中心に幅広いアプリケーションで導入が拡大～
	2月28日	■ 米国シリコンバレーの海外拠点の閉鎖について
平成30年3月期 第 1 四半期 (参考)	4月3日	■ ユビキタス社「一般社団法人セキュアIoTプラットフォーム協議会」へ参加、IoTシステムの次世代セキュリティ標準の策定を開始
	4月3日	■ 株式会社エーアイコーポレーションのグループ企業化について
	4月3日	■ 役員人事内定に関するお知らせ
	4月27日	■ ユビキタス社とソーバル社、IoTトータルソリューションの提供で協業～IoTデータハブとエッジデバイス向けネットワーク・セキュリティソリューションで連携～

平成29年 3 月期 第 4 四半期 開示一覧

発表日		プレスリリース
平成30年3月期 第 1 四半期 (参考)	5月8日	■組み込みソフトウェアNo.1ベンダーを目指して「ユビキタス・AIコーポレーション グループ」ブランドが誕生～組み込みソフトウェア技術・開発力と海外先端ソフトの結集で、高付加価値IoTエッジデバイスソリューションのタイムリーな提供体制を構築～
	5月8日	■ユビキタス・AIコーポレーショングループ、「ComboConnect」を販売開始～自動通信切り替えや省電力機能を持つBluetooth/Wi-Fiコンボモジュール向け無線通信ソフトウェアを製品化～

平成29年 3 月期 第 4 四半期 開示一覧

開示日		適時開示
第 4 四半期	2月6日	■平成29年 3 月期通期業績予想の修正に関するお知らせ
	3月3日	■株式会社エーアイコーポレーションの株式の取得（子会社化）に関する基本合意書締結のお知らせ
	3月23日	■事業譲渡の基本合意に関するお知らせ
	3月31日	■事業譲渡契約締結及び減損損失の計上に関するお知らせ
平成30年3月期 第 1 四半期 (参考)	4月3日	■役員人事内定に関するお知らせ
	4月3日	■株式会社エーアイコーポレーションの株式の取得（完全子会社化）に関するお知らせ

質疑応答概要

【Q1】

子会社のエイム社（以下、AIM社）は営業利益1億円、のれん償却費1億円であるが、営業キャッシュフローとしては1億円の貢献をしているという理解でよいのか？

また、のれんは、5年償却のため、あと4年後には会計上も1億円利益に貢献すると見てよいのか？

【A1】

概ね、その通りです。それに加えて、エーアイコーポレーション社（以下、AIC社）もグループに加わったことで、AIC社経由での開発案件の受注も増える可能性もあり、より大きな利益貢献を期待しています。

【Q2】

AIC社も、AIM社と同様にのれんの償却期間が5年であれば、年間1億円くらいののれん償却費が発生し、1億円前後の営業利益は確保可能なように思われるため、アドバイザリー費用についてのみ今期負担するだけで、会計上の利益貢献としてはプラスマイナスゼロが当面続くという見方でよいのか？

【A2】

現時点でのれんの金額は確定しておりませんので、あくまで想定ですが、概ね、そのような見方をしております。

これに加えて、グループ内でのシナジー創出のための具体的施策を実行することで、シナジー創出部分がアップサイドの利益として貢献することを期待しております。

【Q3】

AIM社とAIC社で2億円内外の営業キャッシュフローを生み出せるという見方でよいのか？

【A3】

概ね、そのような見方をしております。親会社である当社がしっかりしないといけないと考えております。

質疑応答概要

【Q4】

AIC社は、AIM社より、さらに具体的なシナジー効果を期待した買収か？

【A4】

まさしく、その点を狙いとして買収を行っております。パートナーシップは各社と色々取り組んでおりますが、事業体が異なるため、なかなか思惑が合致せず、計画した事業進捗や、狙い通りの売上が上げられていないことがあります。

一方、AIC社のように同じ種類の製品を扱っている企業を同じグループに取り込むことで、まず、AIC社は、自社の製品開発ではなく仕入れ販売ですので、利益率こそ高くはないですが、投資も少なく収益の獲得を読みやすいため、グループのポートフォリオを安定化できます。

次に、AIC社の取り扱う製品と当社の製品を組み合わせる、若しくは、掛け合わせることで新たな製品を生み出すことができますので、効果は3、4年後ではなく、早くて今期から生じることを期待できる点でシナジーが強いと考えています。

【Q5】

AIC社の社長の加藤氏が、ユビキタス社の取締役に加わる予定となっているが、将来の経営統合等を視野に入れているのか？

【A5】

現時点では全く未定ですが、グループとして3社の体制になったため、グループの効率的経営の点で、グループ内の組織再編については、AIC社に限らず、AIM社も含め、将来的にどのような体制が適切かは議論するべきだと考えております。

なお、この度、加藤氏を当社の取締役を迎えるべき準備しておりますのは、加藤氏には引き続きAIC社の経営を主に行って頂くとともに、この業界で長い経験をお持ちの方ですので、いわゆるPMI（Post Merger Integration）に関し、どのようにシナジーを生み出していくかということ、当社の経営の一員という立場で、一緒に考えて頂くことを主眼としての起用となります。



Ubiquitous

株式会社ユビキタス Ubiquitous Corporation

〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-21-1 明宝ビル6F TEL : 03-5908-3451 FAX : 03-5908-3452